

ふりがな 氏名	たおか ようこ	都道府県	愛知・三重	
	田岡 洋子			
所属/肩書	愛知黎明高等学校／教諭、ESD in 三重			
私の ESD活動	ESDは私の行動指針です。ESDをそうさくし、ESD仲間を増やすことが、私のESD活動です			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

【愛知黎明高等学校（学校法人 愛西学園）】

地域特性に基づいた教科横断的なカリキュラムを実施しています。具体例を挙げると、国際理解ワークショップとJICA訪問で世界と自分のつながりを意識する〔国際探究コース〕、校舎周辺の生態系調査を行い環境問題と向き合う〔自然探究コース〕、地元PR商品を検討して地域活性化を試みる〔地域探究コース〕、生涯スポーツの重要性を学びNewスポーツを考案する〔アスリート探究コース〕など ESD のエッセンスを盛り込んだ授業を展開し、多文化共生の時代を生き抜く力を育てています。また『まちは学校』を合言葉に、地域市民に支えられながら教育活動を進めています。愛知県弥富市との定期協議会を重ね、駅伝大会や国際交流などの行事を協働開催したり、市役所や地元企業でインターンシップを行う等、地域と学校の協働での教育づくり、地域づくりに取り組んでいます。

【ESD in 三重】

《E:ええやん、S:すごいやん、D:できるやん》という三重弁のキャッチフレーズとともに、ESD の概念を伝え、ESD の輪を広げる活動を、2005 年から行っています。三重県で ESD を探索し創作するための会報誌『ESD そうさく隊レポート』発行や、市民講座（「アフリカ裏側探検隊」、「チャイハナ キルギス」、「災害避難マップづくり」など）の開催、イベント（「ワールド ティーパーティー」、「手打ち伊勢うどん地産地消」など）の企画、スタディーツアー（モロッコ、富士エコ登山など）実施、フェアトレードカフェ出店による被災地支援など、地球のためにできることを地域でこつこつ続けています。直近のイベントは 2013 年 8 月に開催した『中東シリアの平和を願う写真展』です。ESD in 三重では 2006 年にシリアと三重を繋いで生中継交流を行なったのですが、写真展では平和だった当時と内戦の起きている今を比較し、来場者と共に持続可能な地球について考えました。

・学校法人 愛西学園 愛知黎明高等学校: <http://www.a-reimei.ed.jp/index.html>

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

ESDを初めて知った2005年、私は25歳の会社員でした。当時「ESD＝地球の未来のための活動」だと信じていました。しかし33歳の私にとってのESDは故郷を愛おしむ気持ちのようなもので、未来や地球といった遠く大きい存在ではありません。「環境問題」と聞いて外国の砂漠をイメージしていたのが、伊勢の海や熊野の山が浮かぶようになりました。ボランティア活動こそESDだと以前は考えていましたが、今は毎日の暮らしがESDの実践だと感じています。

若者は変化に柔軟で、新しいものを取り入れることに貪欲です。ESDを自分のものとして取り込み、ライフスタイルを変えることができる世代であると思います。そんな若者一人ひとりの持つ“変わる力”が、社会を変えるエネルギーとなるのではないのでしょうか。ESDの意義と魅力が若者世代から上の世代や次世代へと波及していくよう、ESD実践者として社会への発信に力を入れたいと思います。